

長い夏休みのスタートです

今年度は7月22日(木)「海の日」から8月26日(木)までの36日間です。

昨年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う臨時休校があったため、夏休みは8月1日～19日の19日間に短縮されました。今年度は約2倍の長さになります。ただ、夏休みは、何日あっても、あつという間に終わったとを感じるものです。

そこで、子供たちに、安全で楽しく過ごしてもらうために、夏休み前集会では、私から次のような話を子供たちにする予定です。

「上級生は、下級生の手本」

下級生は、日頃から上級生の姿をしっかり見て、言動をよく覚え、まねるものです。朝のあいさつにしても上級生が上手な班は、下級生もだんだん上手になることが一般的です。また、登校中に誰かが転ぶと、上級生がやさしく声をかけ、心配する姿をよく見かけましたが、この優しさもこれまでの上級生から受け継いだものなのでしょう。つまり、「上級生は下級生の手本」に自然になってしまうものです。このような話を高学年にすると「私は見てほしくない。」「見せようと思っていない。」と嫌がる子供もいますが、仕方ありません。

ただ、「手本」とは見て学ぶもの、まねるものですから、好ましくない言動や身なりも当然学ぶことになりがちです。だから、好ましくない言動を注意された際に、子供たちから「〇〇さんもしています。」という言い訳が戻ってくることもあるのだと思います。

長い夏休みの間は、近くに親がずっといるわけではありません。当然、教師がいるわけでもありません。仲のよい同級生に加え、近所の異学年集団で遊ぶ機会が増え、上級生から学ぶ機会もあるでしょう。だからこそ、「上級生は、下級生の手本」という言葉を覚えておいてほしいと思いました。

私の子供時代には、よい意味でのガキ大将がいて、手本になってくれましたし、また、間違うと近所の人が怒ってくれたものです。時代が変わって、互いに干渉しなくなったとしても、高学年が考動力をさらに培い、リーダー性を発揮してくれれば、学校や地域での活動全体がさらにより方向に進み、活性化されるはずで、だからこそ、私は、特に高学年のさらなる成長を期待しています。

屋外環境整備・維持

ゴールデンウィークから、高木の下枝切りや花壇・畑の整備等の屋外環境整備に努めてきました。7月初めには桜にイラガが発生したので、グリーンステージ周りから学びの森までの広範囲に渡り、消毒を業者にお願しました。また、先週は、これまで切り貯めた枝の片づけてもらいました。カイズカイブキの下もすっきりしました。今後は、この環境を維持できるように頑張っていきます。

また、夏季休業中に運動場や体育館周りにペットボトルやお菓子の袋等のゴミが落ちていないといいなと思っています。



【 駐車場横のカイズカイブキと花壇 】